

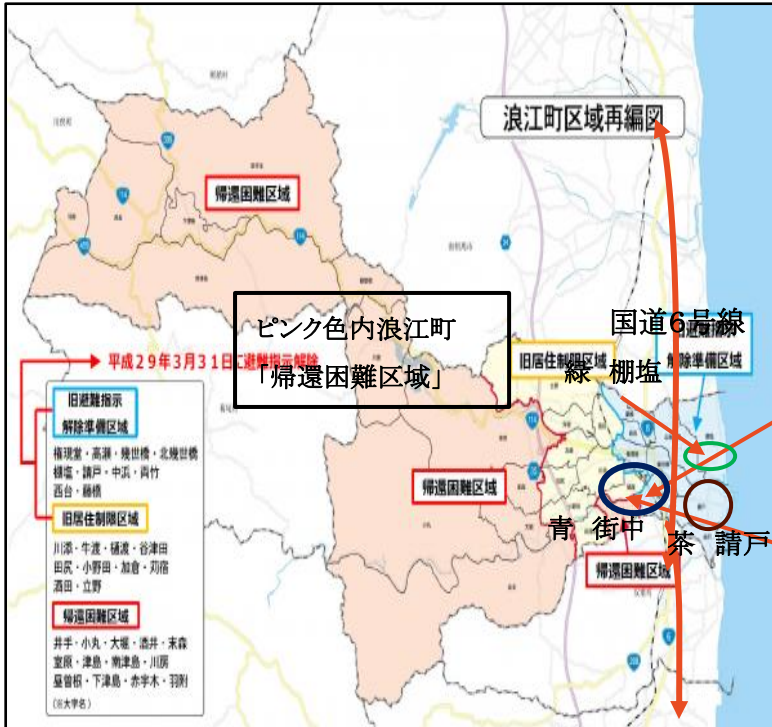
4. 浪江町 【その1 浪江町中の様子】

浪江町役場を拠点に、消防署新築、大手スーパー開店。8月1日、国道6号線と交差する115線沿いに、「道の駅 浪江」オープン。オープンセレモニーには地元に戻った人たちのほか、避難している住民も加わり賑わった。待ちに待った「交流施設」。津波を免れた役場エリアが復興拠点区域。

かつて賑わった駅前通りは、解体が進み更地が増えた。旧市街地の衰退は著しい。役場周辺復興拠点と、街中はどうつながるのだろう。

2020年7月31現在、住民登録者数16,888人 世帯数6,836、居住者数1,449人。

2019年10月住民意向調査 「帰還したいと考えている」11.4%、「まだ判断がつかない」26.1% 「帰還しないと決めている」54.9%。帰還者数1,400人。《浪江町 HPより転載》



大手スーパー出店



かつての街中 当時のまま



更地が増えた駅前通り



道の駅 浪江オープン当日



久しぶりに地元住民集う



多くの来客で賑わう

【その2 内陸部の帰還困難区域】

浪江町は、県道35号線沿い13地区が「帰還困難区域」。立野地区先は、広範囲に圃場やため池の除染作業。溜池の除染現場。工事作業は大掛かりだ。小野田地区圃場除染現場を過ぎ、大堀地区(大堀焼陶芸の里)に入る。窯元の屋敷や登り窯は、放置されたまま。大堀焼で賑ったかつての風景はない。

震災前の窯元は237軒。震災後避難先で新たに再開した窯元は10軒。

35号線と交差する国道114号線(通行距離27km)開通で、福島市と繋がった。高瀬川を渡ると浪江町、双葉町へと抜けられる。開通により復興が加速されていくといい。

しかし、9年過ぎても「帰還困難区域」は、住民の一時帰宅でさえ市町村の通行証が必要である。



立野地区 溜池除染中



金谷地区 住民を待つ梅



除染仮置き場 拡大続く



小野田地区 梅満開



小野田地区 圃場除染中



道路脇高台の交通安全碑



大堀相馬焼民芸館



雑草に覆われた窯元の屋敷



大堀地区 一部除染中



「大堀地区」立ち入り禁止



2019.10.19 台風19号後の高瀬川

【その3 請戸地区復興】

東日本大震災の津波で、請戸地区は大きな被害を被った。沿岸部は15、5mに及び、漁港、倉庫、住居など約600棟が流失。津波による請戸地区の死者154人。しかし放射能汚染で不明者の捜索さえできず、住民は着のみ着のまま避難。県発事故で、住民の避難生活は長期に及び、その後は「帰還困難区域」に阻まれ、復旧は遅れた。2017年4月1日「帰還困難区域」解除により、復旧工事は瓦礫撤去からスタート。同時に防潮堤・防潮林造成工事を優先着手。今尚工事は続いている。

2020年3月11日の請戸地区。住居跡はすべて更地になった。しかし、「災害危険区域」により、住宅・宿泊施設等は建設できない。魚業施設以外復興計画はなく、請戸地区の活用は未定だ。

～「帰還困難区域」に立入り 2014年8月23日、許可証明提示



陸に打ち上げられた漁船



請戸地区建物壊滅



住宅玄関前の時計

～震災9年目、2020年3月11日の請戸地区



災害廃棄物焼却施設 分別施設



請戸小学校 震災遺構に決まる



防潮林造成地先は更地が続く



請戸海岸法面整備



漁港内浚渫船作業

【その4 浪江町請戸漁港復興】

4月8日(水)、津波で壊滅的な被害を受けた請戸漁港で、9年ぶりに競りが再開された。昨年10月、請戸漁港に完成した「請戸荷捌き施設」での初競りである。ヒラメやカレイ、ソイなどが競りにかけられた。

この日を待ちに待った仲買人や漁業者など、多くの水産関係者が集まりとてもにぎわった。

しかし、未だに試験操業だ。漁獲された魚は地元でさばかれている。



漁港壊滅 2014年8月23日 「荷捌き場建屋」残骸 2017年2月17日 漁船と荷捌き施設 2020年3月11日



完成した「請戸荷捌き施設」での初競り



漁港への新たな道路工事

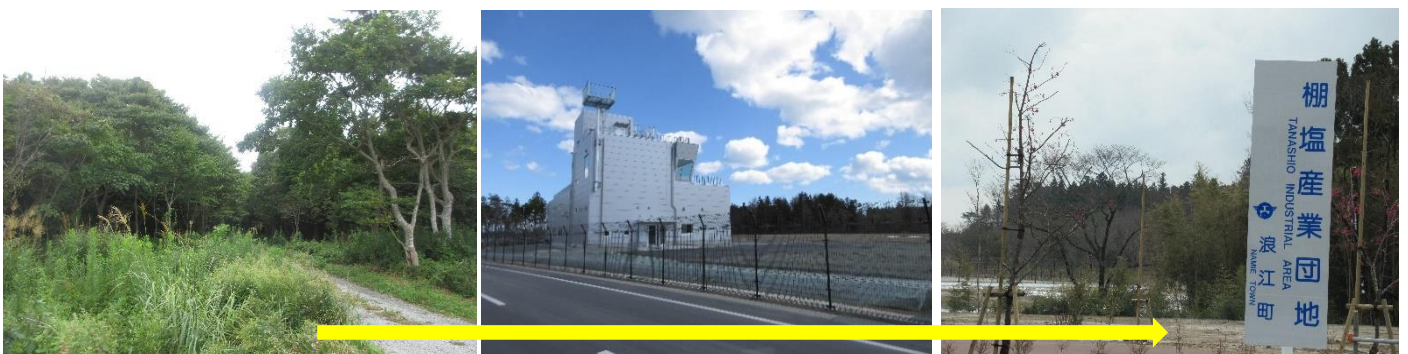
【その4 浪江町棚塩産業団地】

浪江町棚塩地区と南相馬市浦尻地区にまたがる海岸林は、唯一津波被害を免れた区域だった。

原発事故により東北電力(株)小高原子力発電所建設地は、原発建設撤退を決定。浪江町に無償譲渡された区域と併せ、「福島イノベーション・コースト構想」が具体化した。

オリンピック需要向けに工事は進められ、「水素製造工場」はすでに稼働。世界最大級の施設である。隣接地は「塩棚産業団地」が完成し、更なるエネルギー供給地として、企業参入が期待されている。

残ることを願った海岸林は、2年前の取材中に、すでに開発が始まっていた。半年後、木々はブルドーザーで、なぎ倒された。復興とは、残された貴重な自然まで破壊することも含まれている。



津波を免れた海岸林

水素製造工場稼働

1年後 広大な産業団地に